

8月～9月 りんご生産情報

令和3年8月
JA つがる弘前
岩木地区営農係

スグリもぎを行い鮮度の高いつがるを収穫しましょう！

早生種の熟度は、糖度がやや高く、酸度が低い状況です。早生種の着色には葉の養分が重要となるため、葉の取りすぎには注意し、つる回しを中心とした着色管理を行うようにしましょう。
また、中・晩生種については今一度着果量の見直しを行いましょう。
薬剤散布も残りわずかとなりました。最後まで事故の無いよう注意しましょう。

☆肥大状況

8月2日現在 (単位: mm)

地 点	つがる				ジョナ				王 林				ふ じ			
	本 年	昨 年	平 年	平年比	本 年	昨 年	平 年	平年比	本 年	昨 年	平 年	平年比	本 年	昨 年	平 年	平年比
五代	72	76	75	96%	74	75	74	100%	62	67	64	96%	66	65	64	103%
百沢	72	72	73	99%	68	68	68	100%	61	62	64	96%	60	62	62	97%
東目屋	66	63	67	99%	64	68	66	97%	54	58	59	92%	55	59	59	94%
西目屋	70	68	70	100%	63	64	65	98%					56	56	57	98%

◆早生種の管理

- つがるは陽光面に着色し始めた頃が葉摘みの開始時期となります。ストッポール散布後5日以上たってから行うようにしましょう。
また、つがるは葉の枚数や芽の数が少ないため葉摘みはつる元を中心に行い、つる回し中心の着色管理を行いましょう。
- 葉とらずつがるは特に支柱入れやツル回しをこまめに行いましょう。
- 高温条件下での強い葉摘みは、日焼けや着色遅れの原因となりますので注意しましょう。
- 良品生産のため、スグリもぎを徹底しましょう。つがるはスグリもぎを行うことで残った果実の着色が進みます。
- きおうは最初に出回る黄色品種で、今年の黄色品種全体の評価を左右します。すぐりもぎを行いましょう。また、押せがつきやすいので、収穫や運搬の際には気をつけましょう。



葉柄の細い葉を摘み取る程度にしましょう。

◆中生種の着色管理

- ひろさきふじ（早生ふじ）の葉摘みは9月5日頃（最低気温が15℃程度の日が現れる）から始めましょう。また、反射シートは葉摘み終了後1～2日後に敷きましょう。
- ジョナゴールドの除袋は9月15日頃から始めましょう。また、除袋前の葉摘みは着色だけでなく、味と貯蔵性も劣りますので、除袋後果実の着色を確認してから葉摘みを行うようにしましょう。
- 日焼け防止のため除袋は果実の温度が上がる午前10時～午後3時を中心に行いましょう。また、気温が28℃以上になるような日は中止しましょう。

中生種の早すぎる葉摘みは避けましょう！

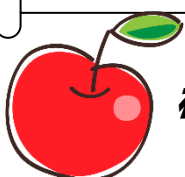
早期の葉摘みは糖度低下や着色不良の原因となります。

早生種山選果基準説明会開催について 8月27日（金）
午前11時 岩木第二冷蔵庫・東目屋冷蔵庫・西目屋CA冷蔵庫

☆薬剤散布

散布時期 反当散布量	薬剤名	倍数	1000㎡当たり	収穫前日数	防除上の注意
8月末 500㎡	ダイパワー（水）	1,000	1kg×1袋	前日まで	
	サムコル（F）	5,000	200ml×1本	前日まで	
特別散布 9月中旬頃	ストライド（顆粒水）	1,500	333g×2袋	前日まで	黒星病の秋期感染防止のために左記の薬剤を散布しましょう。

りんご出荷者は必ず栽培履歴用紙を9月1日までに支店または、りんご受付場所に提出をお願いします。提出後散布した場合は特別散布報告書を提出してください。



秋に向け農作業が本格化してきます。作業中の事故には十分注意しましょう！

